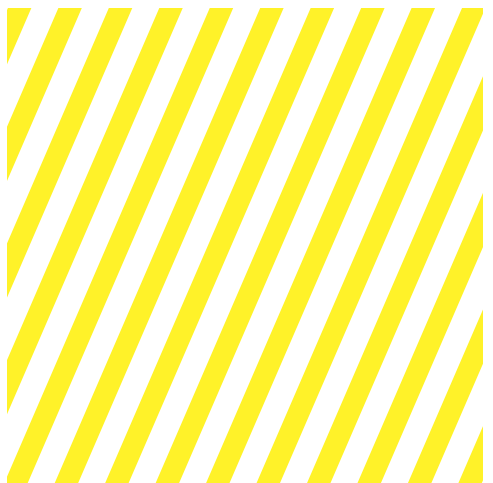


次なる 茨木へ。



茨木には、次がある。

茨木市の取組やイベントなどの情報を発信

茨木市ホームページ

<https://www.city.ibaraki.osaka.jp/>



f 茨木市 Facebook ページ

<https://www.facebook.com/city.ibaraki>



X 茨木市公式 X (旧Twitter)

アカウント名 @ibaraki_city
https://x.com/ibaraki_city



Instagram 茨木市公式Instagram

アカウント名 @ibarakicity_official
https://www.instagram.com/ibarakicity_official/



茨木市公式総合アプリ
「いばライフ」



令和6年(2024年)9月発行

【編集・発行】
茨木市企画財政部まち魅力発信課
茨木市駅前三丁目8番13号
TEL 072(620)1602 / FAX 072(624)8961

【印刷】
株式会社トゥユー

市章
昭和23年(1948年)8月31日に制定。
「茨」の字を図案化したもので、
中央に平和の象徴である“鳩”を表しています。

この冊子は、環境に配慮した用紙を使用し、大豆油インキで印刷しています。
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。



茨木市 市勢要覧

次なる 茨木へ。



茨木には、次がある。

茨木には、次がある。
大阪市・京都市に次ぐ街。
自然と都市が次いでいる街。
次世代を育む学生が多い街。

次々とひろがる、はてしない未来。

黄色い斜めのストライプ。
その角度は、地球の「地軸」と同じ23.4度。
地軸の傾きは日本に四季をもたらし、
次々と、この街を未来へいざなっている。

次なる茨木は、どうなるだろう。
次なる茨木は、何をするだろう。

次なる茨木へ。
茨木市の新しいメッセージです。

茨木市は、平成29年(2017年)2月に、多くの方々からの意見をいただきながら、ブランドメッセージ「次なる茨木へ。」とロゴを決定しました。

ブランドメッセージ(ロゴ)は、地域の魅力やまちのめざすところなど「その地域らしさ」をイメージし、多くの皆さんの共感を呼ぶための合言葉です。市内大学の授業や各種ワークショップなどを通じて得た、多くの方々の想いがこもった案の中から、市民投票により決定しました。

ブランドメッセージ(ロゴ)に込められた想い

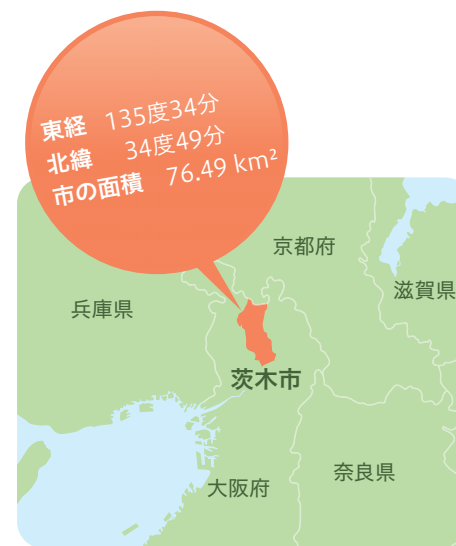
- 「茨」の漢字の中にある「次」という文字を読み取り、過去・現在・未来をつないでいく「次々とひろがる、はてしない未来」をイメージ。
- 黄色い斜めのストライプは、地軸と同じ23.4度の傾き。地軸の傾きが日本に四季折々の豊かな彩りを生み出しているように、茨木市もこれから多彩で豊かなシーンを創造していくという想い。
- 明るい黄色は、茨木市旗の紫紺色と補色関係(互いの色を最も際立たせる色)。



茨木市はこんなまち

茨木市は、淀川の北、大阪府の北部に位置する北大阪地域の中核となる都市です。昭和23年(1948年)の市制施行以来、交通環境の利便性や豊かな自然環境など恵まれた多くの魅力を生かし、着実に歩みを進めてきました。近年には、文化・子育て複合施設「おにクル」の開館や、安威川ダムの完成、その周辺に整備された公園「ダムパークいばきた」の開園が続くなど、誰もが豊かさ、幸せを実感できる「次なる茨木」へ、さらなる歩みを進めているところです。

四季折々の自然が美しい元茨木川緑地、川端康成を育んだ教育力、文化力、活気あふれる多様なイベント…ここでしか持ちえない魅力があふれる茨木市。住み続けるほどに豊かな暮らしを実感できるまちの概要をお届けします。



人口と世帯数 令和6年(2024年)3月末現在
人 口 285,729 人
世帯数 133,929 世帯

茨木市の一日 令和4年 (※令和4年度)	出 生 6.1人	死 亡 7.5人	転 入 37.1人	転 出 31.9人	婚 姻 3.9組
離 婚 1.0組	製造品出荷額等 8億2,000万円	鉄道乗車人数 138,000人※	バス乗車人数 20,051人	高速道路IC利用台数 27,340台※	図書館貸出点数 9,784点※

CONTENTS

●暮らすなら茨木

- 04 「次なる茨木」へのまちづくり
- 08 逢いにいきたい麗しき風景
- 10 ぬくもりのあるまちで安心子育て
- 11 ともに備え いのちを守る
安全・安心なまちづくり
- 12 抜群の交通アクセス 移動に便利
- 13 広がる交流 姉妹・友好都市

●学ぶなら茨木

- 14 「一人も見捨てへん」先進的教育体制
 - 16 地域に開かれた学びの場が充実
- ### ●創るなら茨木
- 18 産業施設が集積 未来に伸びゆくまち
 - 20 召し上がれ 茨木の逸品

●楽しむなら茨木

- 22 茨木から世界へ
誇るべき歴史文化
- 24 響き合う活気と笑顔 彩時記

●まるごと茨木

- 26 茨木市全域マップ
- 28 茨木市のあゆみ



「次なる茨木」への まちづくり

まちの中心部に誕生した市の新たなランドマークとなる文化・子育て複合施設「おにクル」。『育てる広場』をキーコンセプトに、さまざまな取組を重ねながら、市民の皆さんと一緒に活用方法の検討を進めてきました。

また、市北部地域「いばきた」でも魅力的な場づくりに取り組むなど、「次なる茨木」に向けたまちづくりが進んでいます。

文化・子育て複合施設「おにクル」

ホール、こども支援センター、図書館、市民活動センター、プラネタリウムなど様々な機能を備えた複合施設で、前面には芝生広場が広がり、施設内やテラスにも多くの植栽を配置するなど、豊かな緑が特徴です。世界的な建築家である伊東豊雄さんが設計を手掛けたおにクルの館内には、7階建てのフロアを貫く大きな吹き抜け「縦の道」があり、交差するエスカレーターでつながっています。異なるフロアの音や雰囲気を変え、フロアの回遊を生み出し、来館者の皆さんに新たな発見や出会いをもたらします。



ゴウダホール・きたしんホール

ゴウダホールは1,201席のキャパシティがありながら舞台と席が近く、臨場感・一体感が感じられるホールです。きたしんホールは利用用途が幅広い平土間のホールで、オープンギャラリーと一体的に使用することもできます。



屋内こども広場 まちなかの森 もつくる

天候にかかわらず外あそびが体験できる屋内こども広場です。元茨木川緑地の伐採樹木を活用して作られた空間で、木の香りやぬくもりに包まれ、こどもたちの豊かな感性を育みます。



こども支援センター

母子健康手帳の交付や乳幼児健診などの母子保健事業や予防接種事業、子育てに関する講座、ファミリーサポートセンター事業、一時保育事業など、「妊娠・出産・子育て」に関する切れ目ないサポートを実施します。



おにクルぶっくぱーく

5階と6階をメインフロアとし、2階から7階にも各フロアのテーマに沿った書籍などが配架されています。好きな場所で読書を楽しめ、開放的で気軽に過ごすことのできる、まるで「公園」のような空間です。



きたしんプラネタリウム

星空を眺めるだけでなく、地球を飛び出し、宇宙にも行けるデジタルプラネタリウムで、星空や宇宙をキーワードに科学を楽しめます。また、コンサート会場など、新しい活用方法を提供する場として、貸し出しも行います。



市民活動センター きゃぱす

「みんなのえんがわ」がコンセプトの市民活動の拠点。これから何かしたい人、現在活動中のひとちらでもコーディネーターに相談ができるほか、講座やイベントなども実施されます。



さまざまな催しがいっぱい！

図書館と子育て支援のコラボなど複合施設ならではの取組や市民主体の活動がいっぱい。常に色々な発見や出会いがある、誰もが過ごしやすい、訪れたい「立体的な公園」のような場づくりが進められています。



屋上広場でテニス



おにクルオープニングイベント



ハンドメイドマルシェ



ホールホワイエでの盆ダンス

ひと中心のまちなかづくり

まちのあちこちで思い思いに過ごしたり、人々が出会い、活動が生まれたりするような、茨木らしい幸せや豊かさを感じられる「ひと中心のまちなか」の実現を目指して様々な取組を進めています。

元茨木川緑地リ・デザイン

老木や老朽化した施設を更新するだけでなく、滞在できる憩いの場に「リ・デザイン」する取組を進めており、イベントなどでも活用されます。
※詳細は9ページ参照



まちの魅力をつなぐ2つのメインストリート

にぎわいをまちなか全体へと拡げるため、東西に延びる2つのメインストリートを歩きやすく、歩きたくなるような空間づくりを進めています。人と人、活動と活動をつなぎ、交流やにぎわいを広げていきます。



「次なる茨木」への まちづくり



ダムパークいばきた

安威川ダム周辺の自然環境と調和した市の都市公園「ダムパークいばきた」は、民間のノウハウを取り入れ、市民の皆さんの声やアイデアが反映された公園です。長さ日本一の吊り橋をはじめ、園内でマルシェなどのイベントが行われ、湖面ではウォーターアクティビティなどのレジャーが楽しめる、ダム湖畔ならではの魅力的な公園の整備が順次進められています。



長さ日本一！歩行者専用つり橋

メインスポットともいえる「吊り橋エリア」が令和6年（2024年）12月頃完成予定です。日本最長420mの歩行者専用吊り橋は、民間事業者が建設・管理する施設で、橋の上からバンジージャンプなどのスリリングなアトラクションを楽しめます。



※画像はイメージです。

山とまちをつなぐ「ダムパークいばきたコミュニティ」

市民等を中心につくられた「ダムパークいばきたコミュニティ」では、自らが提供するコンテンツによって市民・府民や観光客のみなさんに“おもてなし”を行うことを目的としています。「ダムパークいばきた」や周辺の賑わい、地域活性化へとつなげていきます。



今後順次オープン予定のその他の施設（アクティビティ）



波が少ないダム湖の湖面を活かした、サップやカヌーなどの水上アクティビティが楽しめるデッキエリア。

※画像はイメージです。

本市初となるサッカーやラグビーの一般公式戦ができる人工芝のコートがある多目的運動広場エリア。



※画像はイメージです。

10種類を超えるダムカレー

安威川ダムのPRの一環として、安威川ダムに見立てた「安威川ダムカレー」を茨木市観光協会と一緒に開発しました。平成27年（2015年）の第1号を皮切りに、令和6年6月現在、10種類以上の安威川ダムカレーが、市内飲食店等で商品化されています。注文すると、安威川ダムカレーカードがもらえるお店も！



安威川ダム

令和5年（2023年）9月に本格運用を開始した安威川ダムは、100年に一度の大雨（時間雨量80mm、日雨量247mm）から市街地を守ります。

- 型 式：中央コア型ロックフィルダム
- 堤 高：76.5m
- 堤頂長：337.5m
- 総貯水容量：1,800万 m^3
- 管理者：大阪府



全国でも珍しい都市近郊型のダム。ダムの上から大阪平野の街並みを眺めることができます。



逢いにいきたい麗しき風景

茨木市は中心部を縦断する緑地や花の名所が点在し、四季折々美しい自然風景を身近に楽しめます。山間部はのどかな田園と里山が広がり、都会では見ることができない風景に出会えます。

自然美の宝庫 いばきた 市街地から車で20～30分、茨木市北部の通称「いばきた」は、のどかな田園風景が広がる地域。サイクリングにもおすすめで、山々に囲まれた棚田や水辺などを気持ちよくめぐることができます。



下音羽川



清溪地区の棚田



見山地区のあじさい

元茨木川緑地(大阪みどりの百選)

全長約5kmの緑地に桜をはじめ40種類以上の樹木が植えられています。散策やジョギングなど市街地の憩いの場として、こどもから高齢者まで広く親しまれています。アート作品なども設置され、見どころが豊富です。現在は、植栽環境の健全化や市民が活用できる仕組みと空間づくりをめざす「リ・デザイン」を進めています。



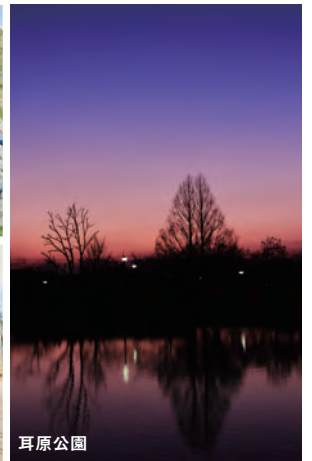
桜の名所で知られ、毎年春は多くの人でにぎわいます。



彩都はな公園



桑田公園



耳原公園

公園がいっぱい

市内各所に、約120か所の魅力的な公園があり、いつも大勢の人たちでにぎわっています。



西河原公園(大阪みどりの百選)

従来の樹木や竹やぶ、用水路をそのまま活かした自然豊かな公園です。野鳥や昆虫が飛び、園内のせせらぎには小魚が泳ぐなど、市街地にいながら自然を感じられる場所です。

若園公園バラ園

茨木市の花、バラが約180品種、約1,750株植えられています。見ごろは5月上旬～6月上旬と10月下旬～11月中旬。園内が豊かな彩りと香りに包まれます。





ぬくもりのあるまちで 安心子育て

妊娠から出産、子育てまでその時々に必要な支援が充実しています。また、地域全体で子育てを温かく見守る体制が整っています。

01 妊娠・出産したら

Ⅱ 妊婦健康診査費用を14回まで助成

大阪府内の委託医療機関や助産所での妊婦健康診査を14回、計12万円(多胎妊婦は19回、計14万5千円)まで助成しています。

Ⅱ 産婦健康診査を助成

産後間もない母親のこころとからだの健康保持や産後うつ病の予防のための産婦健康診査を2回、計1万円まで助成しています。

Ⅱ 母子健康手帳の交付

安心して出産・子育てができるよう、母子健康手帳の交付の際に、保健師・助産師が一人ひとりの妊婦と面談し、妊娠・出産や子育ての相談をお受けします。

Ⅱ こんにちは赤ちゃん事業

赤ちゃんがいるすべての家庭を保育士等が訪問。赤ちゃんの様子などをお聞きし、子育てに役立つ情報をお届けしています。



02 子育てのサポート

Ⅱ こども医療費の助成制度

18歳(高校3年生)までのこどものけがや病気による、通院・入院の医療費を所得制限なく助成しています。

Ⅱ つどいの広場

未就学児と保護者が気軽に集い安心して遊べる場です。スタッフによるふれあい遊びや、育児に関する情報提供を行っている身近な子育て支援拠点で、市内各地にあります。

Ⅱ 一時保育の体制が充実

こども支援センターや子育てすこやかセンター、つどいの広場などで、保護者のリフレッシュや病気・冠婚葬祭などにより、一時的に家庭での保育が困難になったこどもを預かる一時保育を実施しています。

03 こどもの居場所・相談場所

Ⅱ ユースプラザ

おおむね中学生～39歳のこども・若者が対象で、不登校・ひきこもりなど辛くなったときに安心して過ごせる居場所です。さまざまな社会体験ができ、保護者の相談も受け付けています。

Ⅱ 子ども・若者自立支援センター「くろす」

自分の人生を“自分らしく”生きるために、さまざまな悩みを抱えるこども・若者とその家族を関係機関と連携しながらサポートします。

Ⅱ 多世代交流センター

こどもや高齢者が自由に利用できる施設です。遊びやイベントを通して、交流しています。

ともに備え いのちを守る 安全・安心なまちづくり

安全で安心して暮らせるまちの実現に向けて、市民の命と暮らしを守るため、地域で支え合う自主防災、こどもの安全を見守る環境整備、消防救急体制の強化など、「いざ」に備える万全のまちづくりを進めています。

防災力の向上

自分たちでまちを守る

自主防災会、大学、企業などと連携した防災訓練や、子育て世代や若い世代を対象とした防災講演会などを実施しています。災害用備蓄品の整備、情報伝達体制の整備も進めています。



自主防災会

災害時に役立つ 公園づくり

一時避難地に指定している公園では、災害発生後の一時的な避難を支援するために、防災機能を有する設備を設置しています。また、一部の公園では耐震性貯水槽を整備し、飲料水などを確保しています。



〈災害時〉



マンホールトイレ
平常時は駐輪場などですが、災害時には災害用トイレとして利用します。

かまどベンチ
災害時にベンチの脚部をかまどとして利用します。



〈平常時〉



〈災害時〉

防犯環境の整備

青色防犯パトロール車の配置や通学路等への防犯カメラの設置を行い、地域の安全・安心につなげています。



青色防犯パトロール車



防犯カメラ

消防・救急体制の強化

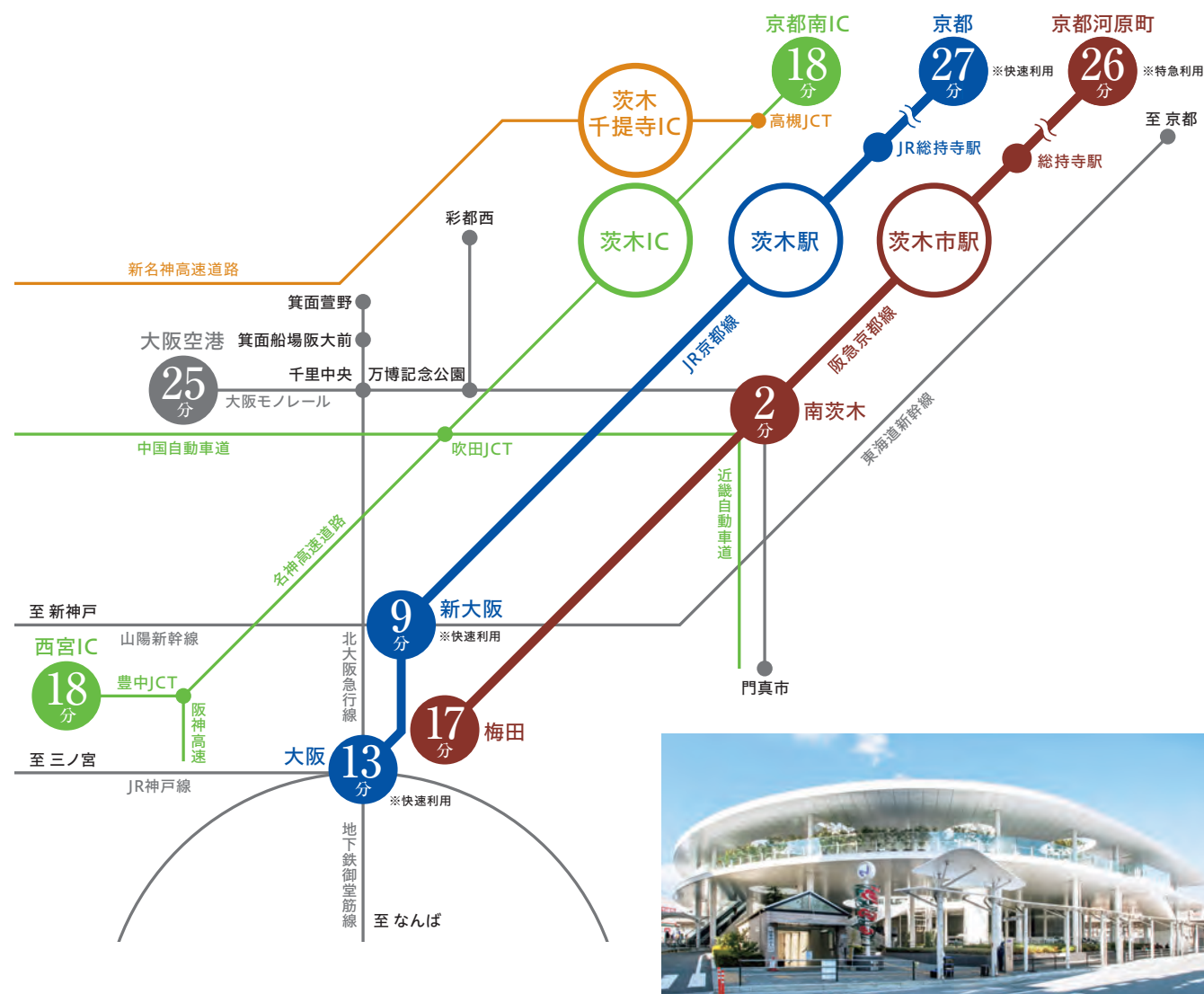
多様な災害に対応するために、さまざまな災害を想定した訓練を行い、消防職員および消防団員の災害対応能力の向上に努めているほか、最新の車両・資機材を導入しています。また、今後増加が見込まれる救急需要に対応するために、救急隊員の能力向上と医療機関との連携強化を行い、円滑な救急活動体制の構築に努めています。





抜群の交通アクセス 移動に便利

茨木市は、大阪と京都の間に位置し、市内をJR、阪急、モノレールの3路線が通ります。大阪、京都へ、新幹線、飛行機を活用して広域へ。抜群の交通環境は毎日の暮らしを支える大きな魅力です。高速道路へもアクセスしやすく、自動車移動も便利です。



JR茨木駅

平成30年(2018年)、駅構内のエスカレーター新設や新店舗の開業などのリフレッシュ工事により、茨木駅はますます便利で活気に満ちた玄関口に生まれ変わりました。東口駅前広場は、市民公募により決定した「いばらきスカイパレット」という愛称で親しまれています。

広がる交流 姉妹・友好都市

茨木市は、国内外のまちときずなを結び、交流を育んでいます。姉妹都市・ミネアポリス市及び友好都市・安慶市とは、代表団の相互訪問のほか、市民レベルの文化的な交流を展開しています。国内では小豆島町(旧内海町)と姉妹都市提携を、竹田市と歴史文化姉妹都市を提携しており、教育・文化・産業などの分野で互いの発展をめざし交流を深めています。



ミネアポリス市(アメリカ合衆国)

アメリカ合衆国ミネソタ州南東部に位置し、豊かな緑と多くの湖に包まれ「湖の街」と言われています。文化芸術施設も多く、全米でも安全で住みやすいまちの一つです。

提携年月日 昭和55年(1980年)10月22日



安慶市(中国)

長江中下流域の重要な港町であり、安徽省を代表する風光明媚な観光地です。中国文壇に影響を与えた桐城派の故郷で、中国京劇と黄梅劇の発祥地です。

締結年月日 昭和60年(1985年)10月5日



竹田市(大分県)

文禄3年(1594年)岡藩(現在の竹田市)藩主となった中川秀成が茨木城主中川清秀の次男であったり、本市の名誉市民川端康成が竹田市を小説の舞台にしたりと、竹田市と茨木市は歴史、文化の面において深い関わりを持っています。

提携年月日 平成25年(2013年)11月16日



小豆島町(香川県)

瀬戸内海の温暖な気候に恵まれた日本のオリーブ栽培発祥の地。オリーブ公園や日本三大渓谷美の一つである寒霞溪、海水浴場など観光名所が豊富にあります。

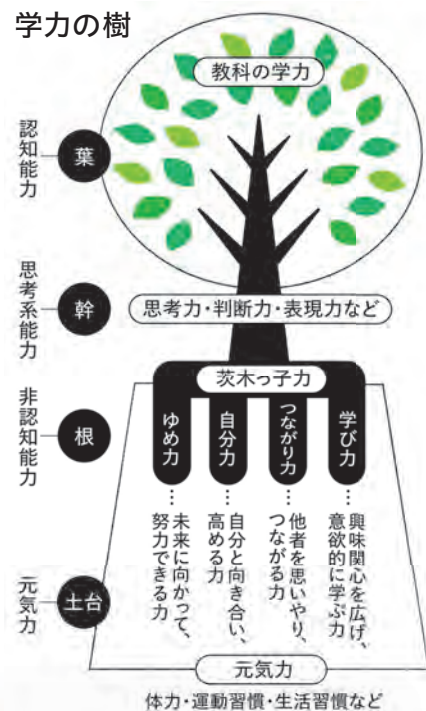
提携年月日 昭和63年(1988年)10月2日

※旧内海町との提携



「一人も見捨てへん」 先進的教育体制

学力の樹



茨木市は教育委員会と学校現場が一体となって、「一人も見捨てへん教育」という理念のもと、こどもたちの学力はもちろん、学力を支える内面の力(非認知能力)の育成に取り組んでいます。これまでの15年以上の取組で、小・中学校ともに学力高位層が増加しただけでなく、学力低位層も減少するなど、全国から注目を集めています。

学力向上を支える 豊かな人間性・社会性の育成

めざすべき学力向上のイメージを「学力の樹」としています。茨木市では、学力を支える内面の力(非認知能力)を「茨木っ子力」と名付け、この茨木っ子力を伸ばすことで、自分なりの考え(思考系能力)を育み、教科の学力(認知能力)の向上につなげています。

茨木っ子力を育む 新しいツール

「茨木っ子力」は自分自身で伸ばす力。こどもたちが、この力をどの場面で求められ、どう発揮できたのかを自身で内省し、「もっと伸ばしたい」と意識できるようにするため、「茨木っ子キャリアパスポート」と「茨木っ子いま未来手帳」を導入しました。



シャワーを浴びるように学ぶ 英語教育

年間を通じて、全小中学校に外国語指導講師(NET)を配置しています。また、複数のNETを招き、シャワーを浴びるように英語にふれる授業「英語シャワーデー」を全市立小中学校で行うとともに、市立保育所、幼稚園、認定こども園でも「英語で遊ぼうデー」を実施。外国語を通じて積極的にコミュニケーションを図ることができる能力の育成に力を注いでいます。

1人に1台タブレットを貸与 進むICT教育

こどもたちに1人1台タブレット端末を貸与し、一人ひとりの実態に応じた学習やこどもたち同士で教え学びあう学習、家庭でのデジタル教材を使った学習などに活用しています。



支援学級の子どもたちを支援

100人以上の介助員・医療介助員(看護師資格保有者)が支援学級在籍のこどもたちを支援(介助)しています。



教育を支援するサポーター

児童生徒を個別に指導支援

児童・生徒の個別の教育的ニーズに応じた学習支援、生活支援等と読書活動を充実させる図書館支援を行うために、スクールサポーターを小・中学校に200人程度配置しています。



中学校で全員給食を開始

令和7年1月から、中学校でも全員給食が開始。新たに建設する中学校給食センターでは、高度な衛生管理のもと、様々な調理方法を取り入れた、安全・安心でおいしい給食を適切な温度で提供します。なお、全員給食開始後の市立中学校の給食費は、無償となります。



※画像はイメージです。

臨床心理・社会福祉の専門家を 学校に派遣

公認心理士等の資格を有するスクールカウンセラーが教育相談を行い、社会福祉士等の資格を有するスクールソーシャルワーカーが福祉面の支援を行っています。

放課後の安全安心な 居場所に

放課後子ども教室

地域でこどもたちの安全安心な居場所をつくり、成長を育もうと、全市立小中学校で学習、体験活動などを行っています。

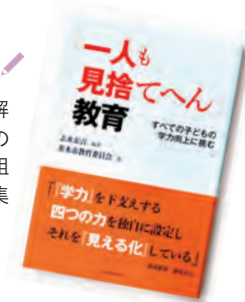


学力向上の足跡を一冊に

「一人も見捨てへん」教育

「一人も見捨てへん」という共通理解のもと、茨木市が実践した学力向上の足跡を一冊にまとめました。この取組が全国的に評価され、著書も注目を集めています。

志水 宏吉 編著
茨木市教育委員会 著
東洋館出版社





地域に開かれた 学びの場が充実

茨木市には多くの大学があり、各大学ではそれぞれ特色ある教育と研究が行われています。
これからも高等教育機関が充実している強みを活かし、大学と地域の連携を深めていきます。

立命館大学 大阪いばらきキャンパス

平成27年(2015年)春に開設され、令和6年(2024年)春には地上9階建ての新棟が建設されました。6学部(経営・政策科学・総合心理学・グローバル教養・映像・情報理工)・7研究科を有し、約1万人の学生が学んでいます。

大学と地域の交流活動

いばらき×立命館DAY AsiaWeek



「地域を愛し、地域に愛されるキャンパス」をめざし、大学の教育・研究に関わる取組みの紹介や、学生企画などのイベントを毎年開催。多くの市民が集まる場となっています。

立命館いばらきフューチャープラザ

市民が利用できるグランドホール、イベントホール、図書館などがあり、地域と大学との交流拠点として活用されています。

岩倉公園

キャンパスに隣接する市が設置した公園。防災公園の役割も備えています。

藍野大学・藍野大学短期大学部



医療保健学部(看護学科、理学療法学科、作業療法学科、臨床工学科)、大学院看護学研究科・健康科学研究科を設置。チーム医療の一員としての医療のプロフェッショナルを育てます。
※藍野大学短期大学部は、令和7年4月に市外へ移転。

大阪行岡医療大学



これからのリハビリを支える理学療法士を養成する大学です。建学の精神である「協同」を掲げて、歴史を紡ぎながら54周年を迎えました。学内の交流、地域交流を大切にしながら、人と地域を大切にする人材の育成に力を注いでいます。

追手門学院大学

昭和41年(1966年)に茨木市(安威)に開学。平成31年(2019年)には新たに総持寺キャンパスを開設しました。8学部(文・国際・心理・社会・法・経済・経営・地域創造)・3研究科を有し、約8,700人の学生が学ぶ文系総合大学です。令和7年(2025年)に理工学部(仮称・設置認可申請中)を新設するとともに、総持寺キャンパスに新校舎を建設し、メインキャンパスとして稼働します。



大学と地域の交流活動

Candle Night

冬のキャンパスにぬくもりを演出したいと、平成22年(2010年)から毎年実施。テーマに沿ったオブジェやメッセージキャンドルなど4,000個のキャンドルで大学を彩り、毎回多くの地域住民が来場しています。



梅花女子大学

令和5年(2023年)で創立145周年を迎えた女子教育の伝統校です。4学部(文化表現・心理こども・食文化・看護保健)・3研究科があり、チャレンジ精神にあふれ、エレガントな女性の育成をめざしています。



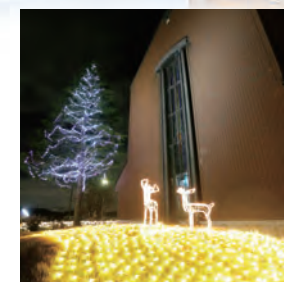
大学と地域の交流活動

クリスマスイベント

毎年12月にはキャンパス内でクリスマスイベントを開催。音楽演奏やイルミネーションなどが市民からの人気を集めています。



梅花歌劇団「劇団この花」
学生がミュージカルを披露。



充実した蔵書数で市民に人気 茨木市立図書館

市内には5館8分室の図書館・分室があり、蔵書数、年間の図書購入費などが充実していて、電子書籍の貸出も行っています。



府内でも最大規模を誇る中央図書館では、静かなBGMも流れ、広々とした館内でゆったりとした時間を過ごせます。



令和5年に開館したおにクルぶっくぱーくでは、開放的な公園のような空間の中で、館内どこでも読書を楽しむことができます。

産業施設が集積

未来に伸びゆくまち

茨木市北部と箕面市東部に広がる彩都は、地区ごとに特色のあるまちづくりが進められ、「働く、住む、学ぶ、憩う」複合機能都市として発展しています。また、茨木市中部から南部にかけても、物流の拠点が続々と立地。人と物を結ぶまちとして機能しています。



彩都バイオインキュベータ

3棟あるインキュベーション施設では、多くのバイオベンチャー企業がライフサイエンス分野の研究開発に取り組んでいます。



国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所

医薬品・医療機器の創出に向けた基盤技術の研究を通じ、日本発の革新的な医薬品開発など国民保健の向上をめざしています。

西部地区

最先端の科学を研究、発信

彩都のシンボルゾーンとして整備された「彩都ライフサイエンスパーク」の全20区画にはバイオ・ライフサイエンス分野を中心に研究機関が立地。ここで生み出される最先端の研究成果が未来へとつながっています。

活力あふれる住みよいまち

平成16年(2004年)のまちびらき以降、平成19年(2007年)に大阪モノレールが彩都西駅まで開通するなど開発が進み、1万6,000人以上(箕面市域含む)が暮らすまちに成長。西部地区は、小・中学校、公園などが整備され、さまざまな店舗がオープンしています。また、大阪モノレール彩都西駅とJR茨木駅や阪急茨木市駅、北大阪急行千里中央駅を結ぶバス路線が開通し、生活利便性がますます向上しています。



大阪モノレール彩都西駅



東部地区

新たな魅力づくりへ 広がる可能性

新名神高速道路の茨木千提寺インターチェンジに隣接するなど交通に大変便利な立地で、産業・業務系を中心としたまちづくりをめざしています。一部地区では工場や大型物流倉庫などの施設がすでに稼働しており、残りの地区でも事業化に向けて官民連携による取組を進めているところです。

中部地区

進む企業立地

大型物流施設などの立地により物流拠点が形成されています。周辺の道路整備も進むなど、企業立地が順調に進んでいます。



ユニクロ西日本EC倉庫



資生堂 大阪茨木工場・西日本物流センター

彩都

人、ものを結び

にぎわいを生む



北大阪流通センター

茨木市は交通条件に恵まれ、北大阪の重要な流通拠点に位置付けられています。茨木市の南部にある北大阪流通センターは府内に2か所しかない「流通業務団地」内に整備されており、トラクターミナルや配送センターなどで構成されています。

大阪府中央卸売市場

北大阪の「台所を支える総合食品供給基地」として、「流通業務団地」内に昭和53年(1978年)に開設されました。新鮮で安心安全な農産物、水産物を消費者に届けるとともに、「市場開放デー」や「社会見学」など地域に向けた企画も開催し、より身近な存在になっています。



南目垣・東野々宮土地区画整理事業(イコクルいばらき)

茨木市南部を走る広域幹線道路の優れた交通利便性を活かし、大規模な商業、物流施設を核とした新たな活力とにぎわいを生むまちづくりを進めています。市と地域、進出事業者が連携し、南部地域の魅力向上と防災機能の充実にに向けた施設整備が進められています。



イメージ



召し上がれ 茨木の逸品



美しい自然と清涼な水に恵まれた
山間部、丘陵部を中心に米や野菜な
どが栽培され、新鮮で安全安心な農
産物が出荷されています。

三島独活

茨木市北部の千提寺地区に伝わる「なにわの伝統野菜」
の一つ。昔ながらの農法で約1年間かけ丹精込めて作
られる独活は、アクがほとんどなく生で食べられるの
が特徴で、ふくよかな甘みを含んでいます。
(出荷時期：2月下旬～3月下旬)

伝統の特産品を守り継ぐ 中井 大介さん 優紀さん

三島独活を生産していた唯一の農家さんが引退され
ると聞きし、まちの特産品を守り継ぐと、平成27
年(2015年)から夫婦二人三脚で生産を始めました。
栽培にはホルモン剤を使わず、独活の上に干し草とわ
らを何層にも積み重ね発酵熱の自然のぬくもりで成
長を促します。伝統
農法を守り継ぐには
たくさんの人の支え
が必要で、地域
の方々に手伝って
いただいています。「独
りじゃ、活きられへん」
独活を「まちの宝」と
して、大切に作り続
けたいです。



見山の赤紫蘇

昼夜の気温差が大きい見山地区で栽培される
赤紫蘇は、葉の色が濃く、梅干しや梅漬けの
発色が鮮やかになりやすいと言われています。
(出荷時期：6月中旬～7月上旬)

赤紫蘇サイダー

特産の赤紫蘇と名水を使った茨木のご当地
サイダー。鮮やかな色合いと爽快感な飲み口が
魅力の人気商品です。

見山大甘青とう

肉厚でやわらかく甘みたっぷりの
大型とうがらし。種子も少なく食
べやすいと好評です。
(出荷時期：7月中旬
～10月下旬)



その他の産品



de愛・ほっこり 見山の郷

茨木市北部の見山地区などで栽培された
新鮮な野菜や米を販売する施設。人気の赤
紫蘇サイダーをはじめ、手作りの米粉パンや
みそ、豆乳ゼラート、豆腐なども並び、市
内だけでなく市外からもたくさんの方が買
いに来られます。



所在地 茨木市大字長谷1131
アクセス JR茨木駅から阪急バスに乗車。
長谷口バス停(見山の郷)下車すぐ
問合せ TEL 072-649-3328



JA 茨木市農産物直売所 みしま館

市内産の農産物や加工品を販売してい
ます。市街地にあり、多くの市民が利用し
ています。

所在地 茨木市庄二丁目26-22
アクセス 阪急総持寺駅から徒歩約2分
問合せ TEL072-645-7100



まちを盛り上げる 茨木メイドの返礼品

茨木産の逸品が揃うふるさと納税(寄附金)返礼品! グルメ以外にも、雑貨、
体験メニューまで多彩なラインナップが揃っています。



青山山椒佃煮
(小倉屋松柏)



蜜ぼてと(大学芋)
(氷とお芋の専門店らんらん)



生餃子(冷凍)
(雁飯店)



ふわふわティラプリ
(大阪プリン専門店
うっぷプリン)



特選和牛ハンバーグ
(焼肉薩摩)

茨木から世界へ 誇るべき歴史文化

古墳や史跡など貴重な歴史文化財が数多く残る茨木市。
日本人初のノーベル文学賞作家、川端康成は3歳から18歳までこの地で暮らし、
豊かな文化の薫りにふれ感性を磨きました。



郷土愛を育てる場

まちの歴史・文化に触れる

茨木市立文化財資料館

東奈良遺跡で発掘された弥生時代の資料を中心に、旧石器時代から現代まで時代に沿って展示しています。また、年に1回のテーマ展のほか、企画展や郷土の歴史を知ることのできる講座などを開催しています。

どろ銅鐸の鑄型 (国指定重要文化財)

弥生時代の大集落とされる東奈良遺跡から出土。完全な形で残っている国内唯一の石の鑄型です。



郷土史料室

令和4年(2022年)3月に開室。市史編さん過程で収集した、古文書等の史料や歴史関係の図書を閲覧できます。



茨木市立キリシタン遺物史料館

隠れキリシタンの里として知られる千提寺・下音羽地区から発見された貴重な遺物を展示しています。キリシタン大名、高山右近の領地であったことから、この地にキリスト教が布教されたと考えられています。



歴史の教科書でおなじみ
聖フランシスコ・ザビエル像
(国指定重要文化財・神戸市立博物館蔵)



マリア十五玄義図
(府指定文化財)

日本人初の ノーベル文学賞作家の原点

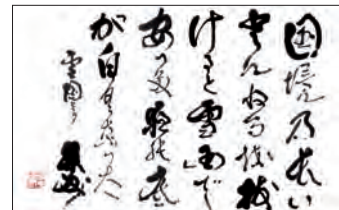


名誉市民 川端 康成

川端康成は、3歳から18歳まで茨木市で暮らし、旧制茨木中学校(現府立茨木高校)在学時に、作家を志しました。昭和43年(1968年)に日本人として初めてノーベル文学賞を受賞。茨木市は氏の業績をたたえ、「茨木市名誉市民」の称号を贈りました。代表作には、「伊豆の踊子」や「雪国」などがあります。



茨木市についてつづった
「私のふるさと」の直筆原稿



直筆墨書「雪国」冒頭

茨木市立川端康成文学館

小・中学校時代の資料、直筆原稿、書簡、墨書などを展示。企画展やテーマ展のほか、川端作品や近現代文学に親しむ講座を開催しています。また、館内の書斎再現スペースでは、作家体験もできます。



葬式の名人



川端康成の名作群をモチーフに、オール茨木ロケで撮影、令和元年(2019年)9月に全国公開された映画「葬式の名人」(前田敦子・高良健吾主演)。制作にあたってはクラウドファンディングを実施するなど、多くの方々に応援いただきました。

富士正晴記念館(茨木市立中央図書館併設)

詩人・小説家の富士正晴氏が生前に収集した文学資料や自作の絵画などを展示。実際に使っていた書斎が復元されています。



富士正晴

徳島県三好郡生まれ。同人誌「VIKING」を創刊し、司馬遼太郎など多くの著名文学者と交流した詩人、小説家。茨木市安威の竹林に暮らしていたことから、「竹林の隠者」と称されていました。



祈りの聖地

守り伝える



江戸情緒

色濃く残る

郡山宿本陣(国史跡)

交通の要衝、西国街道にある郡山宿本陣は、忠臣蔵の赤穂藩主・浅野内匠頭ら参勤交代の大名が多数宿泊したことで知られます。正門の椿が見事な花を咲かせることから椿の本陣と言われています。



上段の間



元茨木川緑地の桜



総持寺庖丁式
茨木音楽祭

春

桜舞いバラが咲き誇り
華やかな花々が出迎える

3月

3月下旬～4月上旬 元茨木川緑地の桜が見ごろ

4月

18日 総持寺庖丁式

5月

上旬 茨木音楽祭

上旬～6月上旬 若園公園のバラが見ごろ



響き合う

9月

中旬 いも掘り園開園

中旬 茨木麦音フェスト

10月

中旬 黒井の清水大茶会

下旬～11月中旬 若園公園のバラが見ごろ

11月

中旬 農業祭
環境フェア

秋

実り豊かな恵みを味わい
文化に魅せられる



若園公園のバラ



黒井の清水大茶会

彩時記

活気と笑顔



茨木辯天花火大会



見山地区のあじさい
茨木フェスティバル

夏

活気ある祭りと
大輪の花に心躍る

6月

下旬 見山地区のあじさいが見ごろ

7月

下旬 茨木フェスティバル

8月

8日 茨木辯天花火大会

冬

心ときめく光に笑顔
新たな年を喜びあう

12月

上旬～1月中旬 いばらぎイルミフェスタ
灯(AKARI)

1月

上旬 消防出初式

上旬～中旬 20歳(はたち)のつどい

9～11日 茨木十日戎

2月



いばらぎイルミフェスタ灯(AKARI)



消防出初式



20歳(はたち)のつどい



茨木十日戎

茨木市全域マップ



豊能町

亀岡市



青少年野外活動センター

キャンプエリア（事前申し込みが必要）と自由に入場できるピクニックエリアに分かれており、さまざまな自然体験を楽しむことができます。



里山センター

身近な自然に親しむことができるイベントや木工教室などを開催。気軽に自然とふれあえます。



生涯学習センターきらめき

和室、陶芸室、アトリエ、多目的スタジオ、ホールなどさまざまな用途に利用できる施設を備え、各種行事や講座を開催・開講しています。



大岩いも掘り園

ホクホクとした食感で甘味の強い紅はるかという品種のさつまいもが植えられています。いも掘りのほか、軽食や農産物の販売も行っています。



忍頂寺スポーツ公園・竜王山荘

多目的グラウンドをはじめ、テニスコート、ドッグランのほか、遊具を備えたわんぱく広場があるレジャースポット。宿泊施設「竜王山荘」は、合宿、研修などに利用できます。



宮本輝ミュージアム （追手門学院大学 附属図書館内）

追手門学院創立120周年事業の一環で、平成17年（2005年）に開館。第一期卒業生で芥川賞作家として活躍する宮本輝氏の愛用品、直筆原稿などを見ることができます。



西河原市民プール

レジャー志向のプールで、ウォータースライダーや流水プールなどを備えています。屋内プールは温水プールとして年中利用できます。

箕面市

高槻市



茨木市立男女共生センター ローズWAM

男女共同参画社会実現のための拠点施設として、情報の提供、各種講座や相談業務を行っています。館内のホール・会議室は、センターの事業で使用していないときは一般貸出をしています。



文化・子育て複合施設おにクル

ホール、こども支援センター、図書館、市民活動センター、プラネタリウムなど様々な機能を備えた複合施設です。



岩倉公園

立命館大学大阪いばらきキャンパスに隣接する岩倉公園は、遊具と芝生がありこどもたちに人気の遊び場です。かまどベンチなど非常時に役に立つ設備が整っており、防災公園の役割もあります。



水尾公園

アスレチック風の大型遊具がこどもたちに人気の公園です。春は桜の名所として、多くの家族連れなどでにぎわいます。



文化・子育て複合施設おにクル
・こども支援センター
・おにクルぶっくぱーく
・市民活動センター
・きたしんプラネタリウム

合同庁舎
・消防本部・消防署
・人権センター

サン・チャイルド

阪急南茨木駅前に立つ現代美術作家ヤノベケンジ氏が制作したモニュメント。東日本大震災からの復興への希望が込められています。





茨木市のあゆみ

先史～近世

茨木市域に人々の活動のあとがうかがえるのは、今から1万年以上も前の旧石器時代。つづく縄文時代の後半や弥生時代には、多くの人々が生活し、その跡が残されています。なかでも東奈良遺跡から発見された銅鐸の鋳型は有名です。また、古墳時代の初めから終わり頃までの各時期の古墳が数多く残されています。

戦国時代には本市繁栄の基礎となる茨木城が築かれたと考えられています。

江戸時代になると参勤交代などで大名らが郡山宿本陣（樺の本陣）を宿泊に利用しました。今も、西国街道沿いに建つ本陣は、往時の面影を残しています。

明治4年（1871年）には、廃藩置県のものち、大阪府の管轄となり、その後の郡制の実施で、明治31年（1898年）、三島郡に属しました。同年10月、茨木村は茨木町となり、その中心地として栄えました。

昭和23年（1948年）1月、茨木町・春日村・三島村・玉櫛村の1町3村が合併し、茨木市は誕生しました。その後、8か村の合併、編入を経て、現在に至っています。

昭和

- 昭和23年（1948年）
 - 1月1日 茨木町・春日村・三島村・玉櫛村の1町3村が合併し、市制を施行
 - 8月 市歌を制定
 - 10月 茨木市消防本部・消防署設置
- 昭和25年（1950年）
 - 1月 元市庁舎開庁式【▶写真①】
- 昭和27年（1952年）
 - 2月 茨木市立図書館が府立ブックステーションとして発足
 - 10月 市民病院開院（昭和39年6月廃止）
- 昭和29年（1954年）
 - 2月 安威村・玉島村を合併
- 昭和30年（1955年）
 - 4月 福井村・石河村・見山村・清溪村を合併
- 昭和31年（1956年）
 - 11月 財政再建団体の指定を受ける
 - 12月 箕面市の一部（旧豊川村の東部）を編入
- 昭和32年（1957年）
 - 3月 三宅村を合併
- 昭和38年（1963年）
 - 7月 名神高速道路が開通
- 昭和39年（1964年）
 - 4月 人口10万人を超える

- 昭和41年（1966年）
 - 5月 赤字財政全額解消（16年ぶり）
 - 11月 市民憲章を制定
- 昭和42年（1967年）
 - 11月 市の木カシと市の花バラが決まる
- 昭和43年（1968年）
 - 6月 市旗制定
 - 市庁舎第1期工事完成
 - 8月 市民プール（現中条市民プール）オープン
- 昭和44年（1969年）
 - 6月 人口15万人を超える
 - 市民会館（ユアaihール）完成
 - 10月 ノーベル文学賞作家川端康成氏に名誉市民（第1号）の称号を贈る【▶写真②】
- 昭和45年（1970年）
 - 2月 国鉄（現JR）茨木新駅舎完成【▶写真③】
 - 3月 阪急南茨木駅が完成
 - 万博博覧会で国鉄（現JR）・阪急両駅が東の玄関口として利用される【▶写真④】
- 昭和48年（1973年）
 - 11月 東奈良遺跡から銅鐸（どうたく）の鋳型発見（国の重要文化財に指定）
- 昭和49年（1974年）
 - 5月 市庁舎（第2期工事）完成
 - 10月 移動図書館としび号スタート
- 昭和50年（1975年）
 - 4月 人口20万人を超える
 - 7月 31万平方メートルの青少年野外活動センターオープン
- 昭和52年（1977年）
 - 12月 保健医療センターオープン
- 昭和53年（1978年）
 - 2月 市民体育館オープン
- 昭和55年（1980年）
 - 8月 全国初の溶融式ごみ処理施設稼働
 - 10月 アメリカ・ミネソタ州ミネアポリス市と姉妹都市を提携
- 昭和56年（1981年）
 - 7月 第二市民プール（現五十鈴市民プール）オープン
- 昭和58年（1983年）
 - 4月 第二市民プール（現五十鈴市民プール）に温水プールオープン
- 昭和59年（1984年）
 - 3月 茨木市立文化財資料館オープン
 - 12月 非核平和都市宣言
- 昭和60年（1985年）
 - 3月 上中条青少年センターと茨木市立川端康成文学館完成
 - 10月 中国・安徽省安慶市と友好都市を締結
 - 12月 茨木市立斎場（告別式場棟）オープン
- 昭和61年（1986年）
 - 6月 人口25万人を超える
- 昭和62年（1987年）
 - 9月 茨木市立キリシタン遺物史料館オープン
- 昭和63年（1988年）
 - 7月 忍頂寺スポーツ公園オープン
 - 10月 香川県内海町（現小豆島町）と姉妹都市を提携
 - 11月 ソウルオリンピック銀メダリストの長谷川智子さんに市民栄誉賞贈呈



平成

- 平成元年（1989年）
 - 10月 市民総合センター（クリエイトセンター）オープン
- 平成2年（1990年）
 - 4月 初の市民さくらまつり開催【▶写真⑤】
 - 生涯学習センター開設
 - 6月 大阪モノレール（南茨木～千里中央駅間）開業
- 平成3年（1991年）
 - 5月 健康増進センターオープン
 - 忍頂寺スポーツ公園内に宿泊施設「竜王山荘」オープン
- 平成4年（1992年）
 - 4月 茨木市立中央図書館と富士正晴記念館オープン
- 平成5年（1993年）
 - 7月 西河原市民プールオープン
- 平成6年（1994年）
 - 4月 若園公園バラ園オープン
 - 10月 福井市民体育館オープン
- 平成7年（1995年）
 - 1月 阪神・淡路大震災発生
 - 3月 人権擁護都市宣言
- 平成8年（1996年）
 - 3月 障害福祉センターハートフル完成
- 平成9年（1997年）
 - 6月 市庁舎南館完成
- 平成10年（1998年）
 - 7月 目垣遺跡から弥生時代中期の人面付土器が出土
 - 10月 大阪モノレール彩都線（万博記念公園駅～阪大病院前駅間）開業
 - 11月 生涯学習都市宣言
- 平成11年（1999年）
 - 4月 東奈良遺跡から最古級の小銅鐸が出土

2000年代

- 平成12年（2000年）
 - 4月 茨木市立男女共生センターローズWAMオープン
- 平成13年（2001年）
 - 4月 特例市となる
- 平成15年（2003年）
 - 2月 東市民体育館オープン
- 平成16年（2004年）
 - 4月 彩都（国際文化公園都市）まちなびらぎ記念式典開催
 - 12月 茨木市立生涯学習センターきらめきオープン
- 平成17年（2005年）
 - 4月 観光協会設立
 - 8月 子育て支援総合センターオープン
- 平成18年（2006年）
 - 10月 市民活動センターオープン
- 平成19年（2007年）
 - 3月 大阪モノレール彩都線（阪大病院前駅～彩都西駅間）開業
- 平成20年（2008年）
 - 11月 北京オリンピック金メダリストの石井慧さんに市民栄誉賞贈呈
- 平成22年（2010年）
 - 4月 南市民体育館オープン

- 平成23年（2011年）
 - 11月 「女性化学賞」を受賞した相馬芳枝さんに市民栄誉賞贈呈
- 平成24年（2012年）
 - 9月 大分県竹田市と「歴史文化交流パートナーシップ宣言」を宣言
 - 11月 バス歌手の岸本力さん、プロゴルファーの故杉原輝雄さんに市民栄誉賞贈呈
- 平成25年（2013年）
 - 6月 市役所内にバスポートセンターを開設
 - 11月 プロゴルファーの井戸木鴻樹さんに市民栄誉賞贈呈
 - 大分県竹田市と歴史文化姉妹都市を提携
- 平成27年（2015年）
 - 4月 立命館いばらきフューチャープラザオープン
 - 岩倉公園オープン
 - 12月 市民会館を閉館
- 平成28年（2016年）
 - 10月 キラリいばらき大賞を創設
 - リオデジャネイロオリンピックに出場したシンクロナイズドスイミング銅メダリストの吉田胡桃さん、中牧佳南さん、リオデジャネイロパラリンピックに出場した陸上選手の芦田創さん、和田伸也さん、野球の国際大会U18アジア選手権に出場した寺島成輝さんに同賞を贈呈
 - 11月 リオデジャネイロオリンピックレスリング銀メダリストの樋口黎さんに市民栄誉賞贈呈
 - JR茨木駅東口広場の愛称がいばらきスカイバレットに【▶写真⑥】
- 平成29年（2017年）
 - 1月 郡・倍賀遺跡から弥生時代中期の人形土製品が出土【▶写真⑦】
 - 2月 市のブランドメッセージ（ロゴ）が「次なる茨木へ。」に決定
 - 8月 中河原遺跡から複数の高床建物が描かれた弥生時代中期の土器が出土【▶写真⑧】
 - 12月 新名神高速道路「茨木千提寺インターチェンジ」が供用開始

- 平成30年（2018年）
 - 3月 JR総持寺駅が開業【▶写真⑨】
 - 6月 大阪北部地震が発生
- 平成31年（2019年）
 - 3月 第18回アジア競技大会・トリアスロンで優勝した古谷純平さんにキラリいばらき大賞を贈呈

令和

- 令和元年（2019年）
 - 5月 総持寺が日本遺産に
 - 9月 オール茨木ロケ映画「葬式の名人」が全国公開
- 令和2年（2020年）
 - 2月 履正社高等学校硬式野球部にキラリいばらき大賞を贈呈
- 令和3年（2021年）
 - 4月 東保健福祉センターオープン
 - 11月 東京パラリンピック2020銀・銅メダリストの和田伸也さんに市民栄誉賞贈呈
- 令和4年（2022年）
 - 4月 西・南保健福祉センターオープン
- 令和5年（2023年）
 - 4月 中央保健福祉センターオープン
 - 11月 文化・子育て複合施設おにクルオープン
- 令和6年（2024年）
 - 3月 安威川ダム完成式典
 - 4月 ダムパークいばきたオープン

